



第2回

■ふりかえりプロジェクト会議 ニュースレター

ナラ枯れ



ー生田緑地マネジメント会議をふりかえる（ナラ枯れ編）ー

1) 開催日時

日時：2021年10月10日（日）14:00～15:00

現地確認：生田緑地前バス停～東口～三叉路～七草峠～生田緑地整備事務所

場所：生田緑地整備事務所2階 登録17名 参加12名

リーダー：倉本宣 サブリーダー：磯谷達弘、井口実

2) ふりかえりプロジェクト会議のサブリーダーをお願いしました。

会長が不在でもふりかえりのプロジェクト会議を進めることができるようにサブリーダーをお願いしました。自然に関することの第一人者である自然環境保全管理会議会長の磯谷氏、地元代表の井口氏の2名にリーダー就任をお願いし、こころよく受け入れていただきました。これからも、このプロジェクト会議に皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。

3) ナラ枯れ、気づいた事、思ったこと、こうしたい、などの共有

第2回プロジェクト会議にナラ枯れについて考えることを提案したのは、今年の9月に行われた第2回運営会議がきっかけでした。生田緑地を考える上で地域コミュニティも重要です。そして、そこに住んでいる方々もこのマネジメント会議に参加しています。第2回運営会議では、ナラ枯れに対する地域課題、防災面に対して意見をいただきました。里山とナラ枯れについて考える一方、地域課題として考えることも重要です。マネジメント会議でもそのことについて真摯に向き合う必要があるとの思いから、今回のテーマに掲げました。また、参加者からの意見のまとめは裏面に掲載しました。

4) 地域課題の解決に向けて、川崎市へ提言

今回の議論を踏まえつつ、喫緊のナラ枯れの課題として、生田緑地の地域コミュニティの安全、財産を守るために、ナラ枯れ対策の提言を川崎市へおこないたいと思います。提言書案については、リーダーが作成し、この会議の参加会員と共有いたします。また、提言書案の意見を踏まえ修正し、運営会議で議論する予定としています。

■会議での主な意見

- 時限でよいので、市の職員の中にナラ枯れ担当を決めてほしい。(都市緑化フェアのように)(協議会?)(オーソライズ)
- 枯れた木の伐採やナラ枯れ菌駆除の予算ではなく、できれば資源化と再生のための予算。あるいはその具体化を考える為の予算。
- 出口を考えること。→システム。
- 生田緑地のナラ枯れ対策メソッドを確立していない。
- 多摩丘陵の為に、再生のストーリーに。
- 補助金、助成金、あるいはSDGsのテーマとして企業が協賛しやすいように筋道を立てる。

<マネジメント会議の姿勢>

- この振り返りプロジェクト会議で、ナラ枯れの話を取扱うという位置づけがよくわからない。ただ、このように問題が起きていることを、どのように解決するのかというプロセスを検証する(或いは改善する)という事例として理解するのかな、と思っている。
- 自然のことを自然会議だけで議論するのではなく、今回のようにいろんな人で共有することで合意形成しやすいし、対応方法を一般市民目線も含めて考えられるようになるから大事。

<具体的対応策>

- ナラ枯れ連絡協議会 or ナラ枯れシンポジウム or ナラ枯れ勉強会の開催。
- 生田緑地にかかわる専門家のレクチャー(or 情報共有) + といった対策の紹介を近隣住民や公園(県・緑化センターetc)を情報共有できるようにして、地域社会に対して、生田緑地マネジメント会議が役割を果たす。
- ナラ枯れについての解説web(⇒マップも、⇒トリアージ等生田緑地の対応方法を示す。)をつくろう。←大事な社会教育!! ⇒看板も。⇒科学館を中心に展示解説も。←大事な社会教育!!
- 科学館でのナラ枯れの展示をすると良い。
- ナラ枯れのトリアージ(⇒来園者の安全確保、民家園の文化財を守る、近隣の家への被害を防ぐのを優先にする等の判断基準を決める。)のプロセスを決め公表。⇒自然会議(整備事務所と連携して)から提案⇒運営会議で承認。⇒リスクマネジメントの一例としてとらえる。
- これを機会に薪炭林としてビジネスするのも良いのではないかな。
⇒正しい理解を市民に。
⇒森の木を切る手入れを当たり前のようにする。

<取り組み手順>

- ①すぐにできることから、まずは該当の木や切り株の前にA5位のサイズのQRコード付の説明書きを設置する。QRコードでは「生田緑地の自然帖」に飛ぶようにするか、それに準じた詳細な説明を得られるようにする。
- ②ばら苑の始まる10/21を目途に「ナラ枯れ」を解説するものを東ロビジターセンター・西ロサテライトに掲示する。or 説明。
- ③予算要求に生田緑地の対策、優先順位を定めるトリアージを考え、市に提言する。
- ④科学館でも臨時企画展示(ちゃんと科学的説明も)。←いまから仕込む(時間がかかる)
- ⑤地域住民+組織に向け連絡会の立ち上げや、シンポジウム・勉強会等の開催をする。

どれにするかはよく協議する。

※科学館との連携については幾つかの方法がある

- 正式な企画展示にしてはどうか。⇒生田緑地の生き物のひとつと言える。
- 今だけの企画展示。展示主体はマネジメント会議。
- ウェブサイト等のみで
- 悠久で壮大な歴史の中で今は「ナラ枯れ」時代という歴史認識をしているが正しい?
- 生田緑地でもナラ枯れで入園者の方や住民の方々の安全の為、伐採することが必要。
- 危険度・優先度をつけて必要な木は早く伐採を。
- 木を伐採したら、何故伐採したのか等を表示して欲しい。
- レクチャー・講演会等の開催をしていきたい。
- ナラ枯れ時代、変位。
- 木を切る。太い木を切っていない為にキクイ虫にやられている。
- クヌギは江戸。
- 昭和30年代までは薪を風呂に使っていた。
- ナラ枯れ〇〇会をつくる。
- 地域の住民との共有。
- 科学館でナラ枯れの展示。実態を知らせる。
- 枯れた木を切る体制。順番などを決める。
- 駆除方法。
- QRコード。
- ナラ枯れの対応については伐採後の植生管理計画(苗の植樹、自然遷移等にまかせる等)を立案する必要がある。
- 薪炭林としての循環サイクルの崩壊が一番の要因であると考えられることから、バイオマス・再資源化等、広くエネルギーに対する考え方を直す必要がある。
- ナラ枯れについてはコスト面からも優先順位をつけて施工せざるを得ない。市民にもわかりやすい解説は必要。対応にはコストも時間もかかることを説明する。
- 園路沿いのものは枝が落ちるのが怖い。
- 園路沿いのものは枝剪定だけでも早く実施したほうが良いのではないかな?
- 住宅隣接部を先行して伐採すべき。
- 人目がつく場所で伐採した時は、植物の盗掘と同様にお知らせの張り紙をする。
- 園路沿いなど、人目がつく場所のものは、状況を一般の人にもお知らせの張り紙する時間板を作る。
- 伐採木を利用し、利活用の実験をする。A) 薪を作る。B) 薪で焚火をする。窯を作る。ストーブを作る。風呂を作る等々。



5) 第3回に向けて

第3回の日程は、現在調整中です。次回のテーマ等募集します。

いつでも新たに参加できます。
前回の議事録を見ていただくこともできます。
事務局の生田緑地共同事業体にご連絡ください。